

ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（北海道月形町）

概要

- **多分野のフィールドワークとビジネス実践**
農業・福祉・アート・教育の4分野を対象に、北海道の大学生が地域課題の調査と解決に向けたビジネス実践に取り組み、専門性を活かした人材育成を実施。
- **一般社団法人「まちのいりぐち」を中心とした学生誘致モデルの確立**
地域コーディネーター「まちのいりぐち」がハブとなり、大学や自治体、地域の支援民間企業を繋ぐ仕組みを構築。拠点の収益化と学生の恒常的な誘致を連動させ、公的補助に依存しない自走型の地域運営モデルを実現。
- **地域交流拠点「いりぐちハウス」の創出**
空き家をDIYで改修し、学生や関係人口の滞在拠点となるゲストハウス機能を備えた地域交流拠点を整備。

プロジェクトの内容

【連携する大学等】北海道大学 【学生の主な活動先】月形町
【参加学生人数】 49名 【期間】 2025年9月-2026年2月

背景・課題・詳細

現代的な孤独・地域課題に対し、関係人口創出と空き家活用による自走型モデルを目指す。持続的な地域人材の循環、および地域資源の有効活用によるコミュニティ形成を目的に、学生の地域イベント誘致と、空き家を改修した「いりぐちハウス」整備の二本柱で展開。

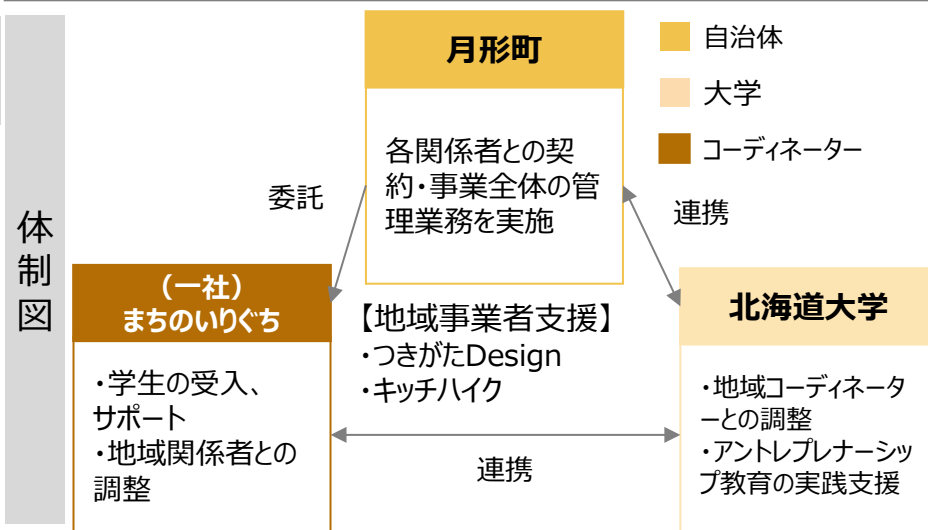
プロジェクト詳細

- 「アート」「教育」「農業」「福祉」の地域フィールドワークを実施、事業化を検討
- ツキガタイケンの実証として、北海道大学とのアントレプレナーシップ教育（起業家創造）を農業をテーマとして実施
- 関係人口の滞在拠点となる空き家改修を実施。北海道の学生を誘致し、共同で改修を実施しゲストハウスとして整備

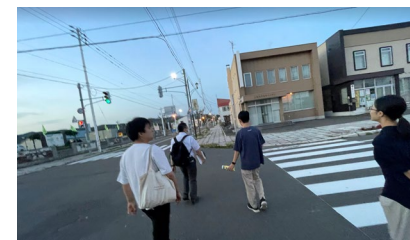
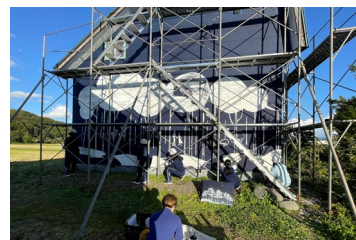
特徴・創意工夫

- 学生誘致など軸として活動する一般社団法人がハブとなり、学生と自治体、地域団体をつなぐ実践的連携モデル
- 空き家を拠点を活用し、再訪や二地域居住等を促進する中長期滞在環境の整備

体制図とイメージ



イメージ



ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（秋田県能代市）

概要

- ・**空き店舗リノベーションプログラム**（空き店舗活用計画を策定し、リノベーションすることで地元の方がチャレンジできる場を創出するとともに、大学生が毎年関われる拠点づくりプロジェクト。）
- ・**地域産業の魅力発見・向上プログラム**（木材関連産業オープン・カンパニーを実施し、その魅力をSNS等での発信、また地域材を使ったDIYを行い、地産地消の重要性を学ぶプロジェクト）
- ・**まちの魅力発見・発信プログラム**（商店街のまち歩きを通して、まちの風景やお店の魅力を発見し発信するプロジェクト。）
- ・**公共空間活用イベント実施プログラム**（遊休不動産を拠点に地域団体が関わる場をつくり、交流や活動の広がりを生み出す。公共空間を舞台とするイベント「のしろいち」に参画し、企画から運営までを担うプロジェクト）

プロジェクトの内容

【連携する大学等】 東京大学、東北芸術工科大学、国際教養大学など 【期間】 20日

【学生の主な活動先】 地域交流拠点整備/魅力発信等 【参加学生人数】 20名

背景・課題・詳細

- ・大学のないまちであり人口減少が著しい状況
- ・若いプレイヤー不足が課題であると考えている

プロジェクト詳細

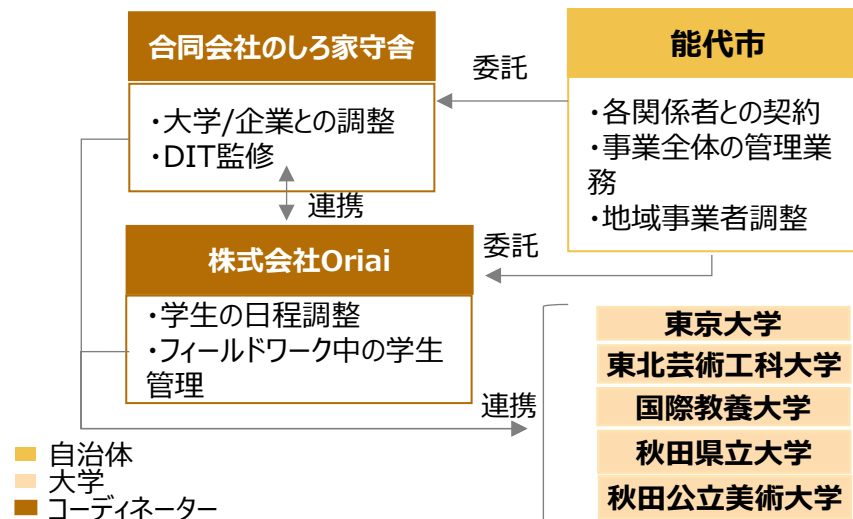
- ・空き店舗改修によるチャレンジの場創出と大学生の継続的な活動拠点整備
- ・木都能代の木材産業を巡る「木都ツアー」とDITを通じた地産地消の学び、パネル展示等の魅力発信
- ・商店街のまち歩きによる地域の魅力発見とパンフレット等によるプロモーションの実施
- ・公共空間活用イベント「のしろいち」の企画・準備から当日の運営参画

特徴・創意工夫

- ・4事業を通じた多様な学生連携の創出
- ・木都能代の魅力掘り起こしという、他地域では真似出来ないプログラム

体制図とイメージ

体制図



イメージ



ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（山形県小国町）

概要

- 大きく3つのプロジェクトを行う。
- ①中高生の探究的な学びとして、「ぶな文化」を教材とし、大学生がメンターとして入る「ぶな文化講座」を実施
- ②地域の方への聞き書きを通して「ぶな文化」を保存し、記事を作成することで町内外に発信
- ③「ぶな文化」を地域価値の源泉と捉え、地域の価値を創出するビジネスプランを考え実装を目指す
- 計20回の合宿を通して様々な角度から「ぶな文化」を捉え、生活環境の変化により断絶の危機に瀕する「ぶな文化」を再構築する。
- 学生が考案したビジネスプランはコーディネーターとして参加する企業が学生と協働のもと実装を目指す。

プロジェクトの内容

体制図とイメージ

【連携する大学等】新潟大学・東北芸術工科大学、早稲田大学 【学生の主な活動先】伊佐領地区ほか

【参加学生人数】のべ100人程度 【期間】令和7年7月12日～令和8年2月16日（のべ56日）

背景・課題・詳細

小国町では、少子高齢化と生活環境の変化により、町の伝統的生活文化である、「ぶな文化」の存続が危ぶまれている。域外の大学生の力で、「ぶな文化」を町内外に振興し、また、地域価値を創出できるビジネスプランの実装により「ぶな文化」を再構築する。

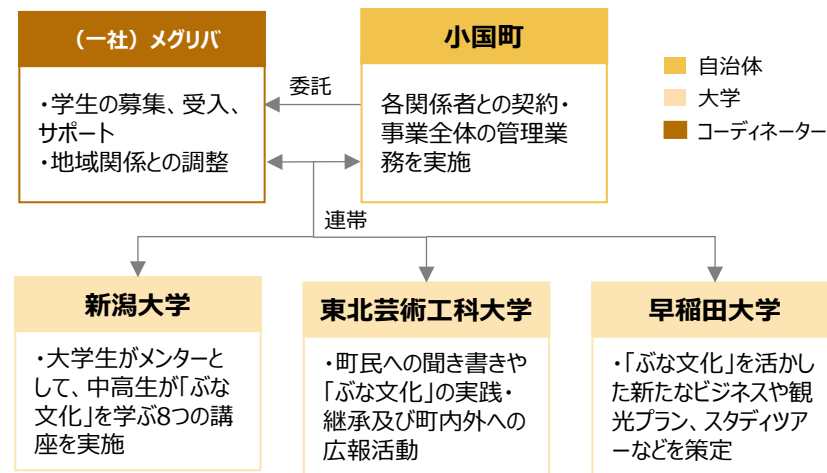
プロジェクト詳細

- 大学生との「ぶな文化」学習による地元学生の地域アイデンティティ創出と進路支援
- 高齢者との共同活動を通じた伝統文化の継承と町内外への魅力発信
- 多角的な調査・分析に基づく「ぶな文化」の価値再構築による新ビジネスや観光プラン策定

特徴・創意工夫

- コーディネーターや地域おこし協力隊による学生の受け皿構築
- 3大学にわたるプロジェクトを日程を重ねて実施し、大学間での相互作用を生む

体制図



イメージ



ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（福島県玉川村）

概要

- 人口減少若者の転出による地域の担い手不足に関する課題解決を目的として、玉川大学と連携し、「教育」「地域資源の活用」「農業」をテーマとした活動を実施することで、子どもたちの郷土愛醸成や関係人口の創出を目指すプロジェクトである。
- 本プロジェクトを通して、「応援し続けたいふるさとづくり」と「ソトの力を活かした循環する地域づくり」を推進する。
- 全7回のフィールドワークを実施し、地域のキーパーソンや地域おこし協力隊等と連携しながら現地活動を行う。学習支援や農業研修、空き家改修などの実践活動に加え、振り返りや成果報告会を実施し、課題の整理および次年度以降の展開に向けた改善策を構築する。
- 単発的な取り組みとならないよう、大学との包括的な連携体制を強化するとともに、参加学生との連絡体制を維持し、プロジェクト終了後も地域と関わり続けられる仕組みを構築する。

プロジェクトの内容

【連携する大学等】 玉川大学、【学生の主な活動先】村内の農地、空き家、小学校等

【参加学生人数】 88人、【期間】 令和7年8月3日～令和8年2月6日（合計24日）

背景・課題・詳細

玉川村では、若者の進学や就職に伴う転出が多く、地域の担い手不足が加速している。このことにより、産業の衰退や空き家の増加、学校の統廃合などの様々な地域課題が生じ、地域の活力が低下している。

プロジェクト詳細

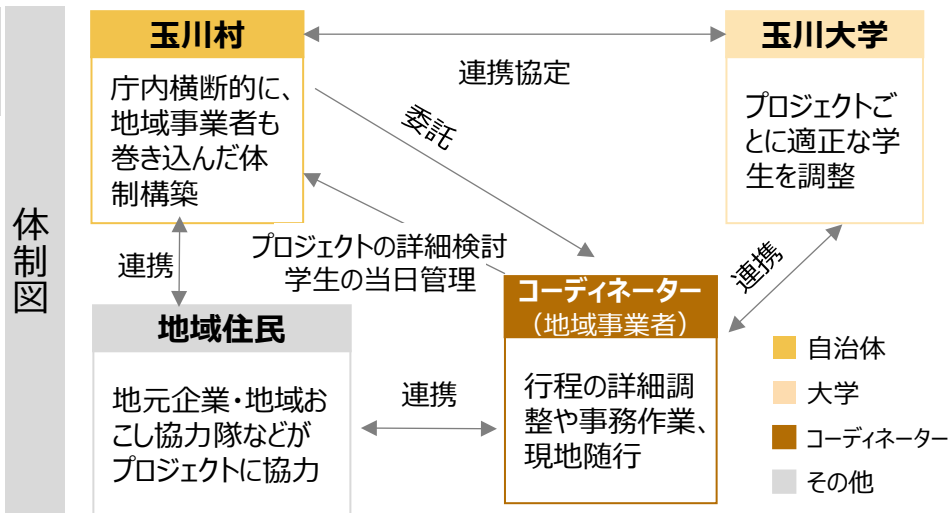
郷土愛醸成や関係人口創出に向けた取り組み

- 教育：小中学生への学習支援、管弦楽団による演奏会を実施。
- 空き家利活用：空き家を滞在拠点・地域交流の場へと改修。
- 農業：村内で農業研修を行い、新たな農業への関わり方やふるさと納税返礼品等の開発を実施。

特徴・創意工夫

- コーディネーター活用による負担軽減。
- SNSやチャットツールを活用することで、遠隔地からでも関わり続けられる仕組みづくり。
- **空き家を滞在拠点や地域交流の場**として改修し、継続的に受け入れ可能な環境を整備。

体制図とイメージ



イメージ



ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（新潟県十日町市）

概要

- これまでの実践女子大学との継続的な連帯による、地域おこし協力隊や地域の多様な世代の有機的な繋がりを基盤に、大地の芸術祭や棚田といった十日町市ならではの地域資源を活かし、域外の大学生が地域と継続的につながる実践型プログラムを展開するプロジェクトである。
- 松之山・松代の2地域を拠点に、空き店舗や空き家の活用に取り組み、関係人口の創出から将来的な定住につながる仕組みの構築を図り、中山間地域の活性化・集落の伝統文化の継承を目指す。

プロジェクトの内容

【連携する大学等】実践女子大学 【学生の主な活動先】市内の松之山地域・松代地域

【参加学生人数】20人 【期間】令和7年7月1日～令和8年2月28日（合計44日）

背景・課題・詳細

十日町市の中山間地域では、高齢化が進み、集落維持が難しくなってきたり、若い世代の流入が急務の課題となっている。

地域交流拠点の形成

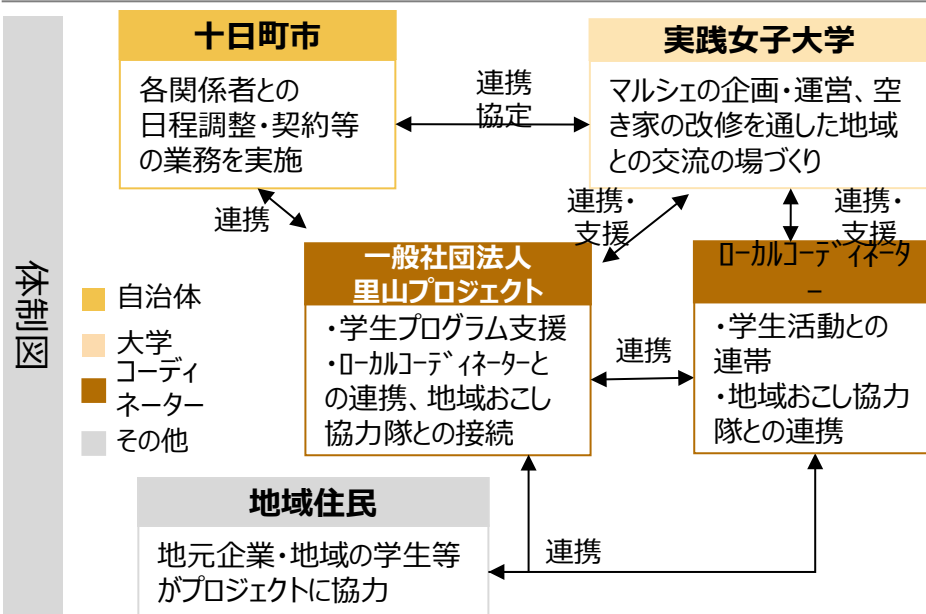
- 松之山・松代の2地域を拠点に、学生の専門を活かし「空き店舗」「空き家」を活用した地域交流拠点づくりを実施
- 松之山地域では、空き店舗を活用した「ふるさとマルシェ」を展開。地域ニーズの把握、マルシェ企画・広報・運営を学生が主体的に実施。また、次年度以降のマルシェ開催に向けた空き店舗の改修を実施。
- 松代地域では、農的暮らしの価値を学び、その価値を次世代へ継承する拠点づくりとして空き家改修を実施。

プロジェクト詳細

特徴・創意工夫

地域おこし協力隊の定住に貢献する（一社）里山プロジェクトをコーディネーターとし、関係人口から定住につなげるため、地域おこし協力隊との協働活動や地域を理解する学びの場など、様々な関わりの場を創出する。

体制図とイメージ



体制図

イメージ



ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（新潟県南魚沼市）

概要 目標とする成果

- ・空き家改修による学生拠点の創出と、公共施設改修による地域活性化拠点の創出。
- ・地元中高生と大学生が交流する機会を創出し、中高生にとって大学進学を身近に感じることができ進学への意欲向上に結びつける。
- ・参加学生との継続的な関係性を構築し、定期的な訪問や別事業への参加に繋げ、地域活性化に意欲的な関係人口として定着を目指す。

<プロジェクトの内容>

【連携する大学等】 法政大学及び千代田区キャンパスコンソーシアム、早稲田大学

【学生の主な活動先】改修施設、そのほか市内でのフィールドワーク

【参加学生人数】概ね25名

【期間】令和7年6月～令和8年3月

背景・ 課題・詳細

ふるさとワーキングホリデーや大学の実習受け入れなど各種事業の実施により、関りをもつ大学や市内を訪れる大学生が増えた一方で、滞在拠点が不足している状況。また、公共施設である資料館の来館者が年々減少し、価値を持て余していた。

プロジェクト 詳細

法政大：古民家改修プロジェクト

建築チーム（デザイン工学部建築学科赤松佳珠子研究室）と拠点を活用した地域活性化プロジェクトチーム（一般学生）に分かれ、活動。

- ◆ 6月：市内の雪国ならではの建造物を学ぶFW
- ◆ 8月：古民家改修、ワークショップ、暮らし等を学ぶFW
- ◆ 10月、11月：古民家改修、活性化アイデア発表
- ◆ 2月：活動報告会、作業

早稲田大学：公共施設改修プロジェクト

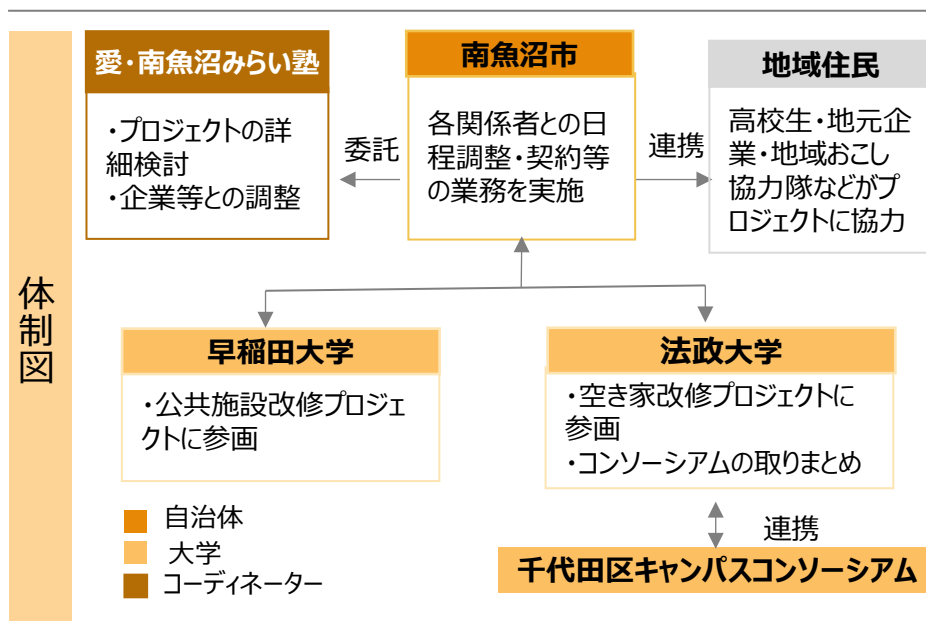
創造理工学部田中智之教授研究室と協働し、活動。

- ◆ 6月：市内の雪国ならではの建造物を学ぶFW
- ◆ 8月：改修案作成と案の実現性考察作業
- ◆ 12月：改修準備、作業
- ◆ 3月：改修作業、報告会

特徴・ 創意工夫

雪国の建築様式を知ってもらう機会や地域のキーパーソン、地域おこし協力隊員との交流の場を創出する。滞在中は共同生活により地域への理解を深め、南魚沼市への愛着を高めるほか、ふるさとワーキングホリデー等への既存事業への相乗的効果を高める。

<体制図とイメージ>



イメージ



ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（長野県小布施町）

概要

- ・「環境」「共同体」「経済」の3テーマごとにチームを分け、小布施町をフィールドとして現場を体験しながら、域外の学生等と域内人材とで、各産業の担い手不足が深刻化し、人口構造や産業構造の大きな転換点とされる2050年の社会の在り方を構想・実証するプログラムを実施。
- ・レクチャー（専門家による講義）、ラボ（実験・実践）、カンファレンス（対話・構想）を通じて生まれたアイデアを、域内・域外人材で共創しながら“実装”までをめざしていく。
- ・共創人口化するまでのプロセスを研究してプログラムへ還元させることに取り組み、持続的に共創人口が生まれる仕組みを構築する。
- ・目指す成果として、関わった学生等が共創人口として継続的に地域にコミットし続けること、町内外の利害関係者で合意し、事業の実効性・持続性を高めること、さらにコーディネータ人材の育成を実現する。

プロジェクトの内容

【連携する大学等】東京大学、信州大学 【学生の主な活動先】小布施町内

【参加学生人数】15名 【期間】令和7年6月～10月（計4回のフィールドワーク実施）

背景・課題・詳細

- 課題①：属人化しないコーディネート体制の構築のための「コーディネータスキルの形式知化」
 課題②：地域と関わりを持つ学生等の増加のための「学生等に選ばれる体制構築」
 課題③：事業の実装につなげる「主体の明確化等の仕掛けづくり」

プロジェクト詳細

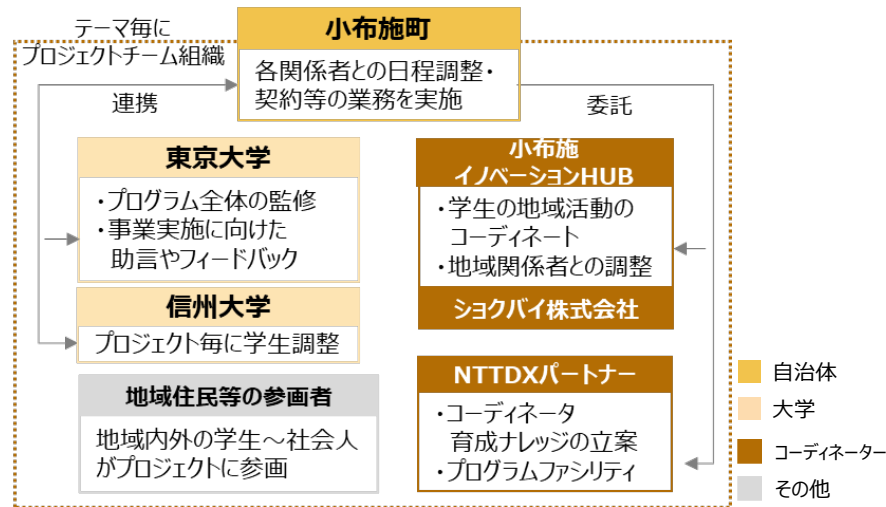
長野県小布施町、東京大学、NTT東日本が2050年に向けた持続可能で魅力ある地域社会のあり方を探る産学官連携プログラムであり、“地域への貢献意欲が高い学生等”が主体的かつ継続的に地域課題解決事業へ参画できるように設計する。まちづくりの専門家や都市の社会人等に加え、当事者として課題に直面している地域事業者が参画できる体制を構築する。さらに、持続的に地域から「地域課題を解決する事業」が生まれることを目指し、事業を実装まで伴走するコーディネートの型をつくり検証しながら、コーディネータ人材を育成することで、事業が属人化しない自走的モデルを設計する。具体的には「環境」「共同体」「経済」の3テーマごとに編成したチームが、それぞれのテーマに応じた事業の構想・実証プログラムを実施する。

特徴・創意工夫

2050年構想を起点とした実装志向のプログラム設計、まちづくり専門家の伴走、参加者の主体性を引き出すファシリテーションを組み合わせる点に創意がある。さらに、地域事業者を当事者として巻き込み役割を明確化することで、対話と合意形成を重ねながら事業を前進させる仕組みを構築している。また、実装を支えるコーディネートの型を体系化し、コーディネートに必要なナレッジをコーディネータ候補者(プログラムOB・OGの学生または卒業生に加え、都市企業の人材等も想定)へ移転するとともに、都市人材によるリソース補完を可能とする事業の仕組みづくりに特徴がある。

体制図とイメージ

体制図



イメージ



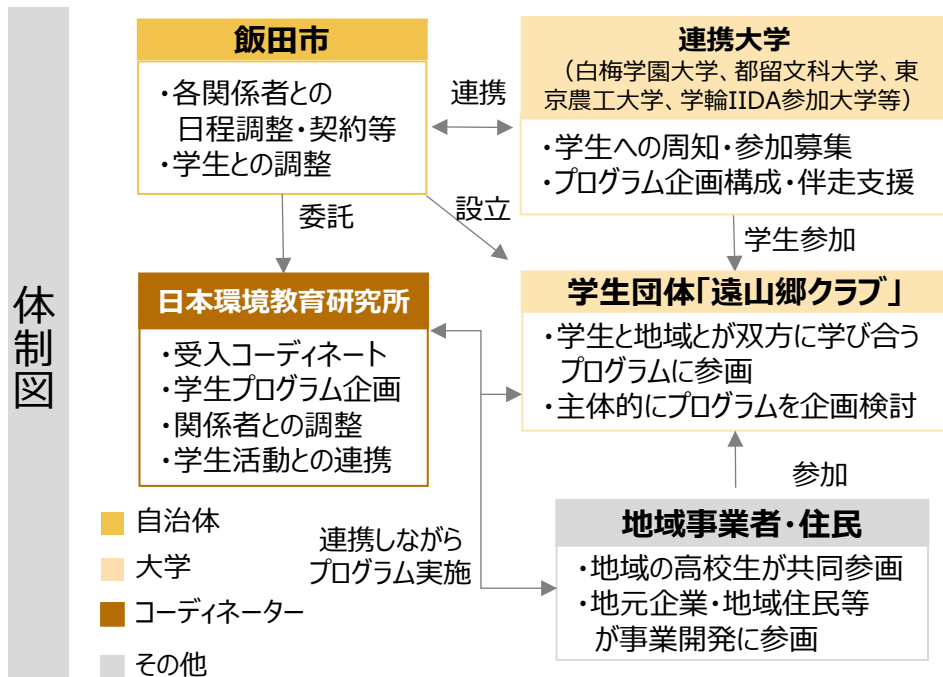
ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（長野県飯田市）

■これまで築いてきた大学生・高校生・地域住民の連携を強化し、域外の学生が飯田市に継続して関わるための仕組み、基盤となる組織(遠山郷クラブ)を新たに整備することで、持続可能な地域づくりの実現を目指す。

概要

| | |
|--------|---|
| 自治体名 | ■ 長野県飯田市 |
| 連携大学 | ■ 白梅学園大学、都留文科大学、東京農工大学等（30名） |
| 取組概要 | <ul style="list-style-type: none"> ■ フィールドスタディ・地域活動（20日間） ■ 新商品・サービス開発企画コンペ |
| 取り組み内容 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 関係人口を創出していくための基盤として学生団体「遠山郷クラブ」を創設 ■ 地域資源を活用した、大学生×地域の共創アイデアコンペを実施し、地域事業者と大学生が協働して商品化・事業化に向けた取組を開始 |
| 目指す成果 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域資源の価値を活用した商品化・事業化にむけて事業が開始されること ■ 学生団体「遠山郷クラブ」が大学と地域をつなぎ、学生が主体的・継続的に地域と関わりをもち続ける拠点となること |
| ポイント | <ul style="list-style-type: none"> ■ 大学生と、コーディネーター・事業者・住民が繋がる仕組み ■ 学生と地域がともに学び、継続的に地域課題解決の成果を生み出す体制を構築 |

体制とイメージ



実施の様相



コンペにて考案した企画・サービスを地域住民の方々へプレゼン



拠点では地域住民の方々との食卓を囲んだ交流

ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（京都府京丹波町）

概要

- 町内立地する道の駅「京丹波 味夢の里」に年間300万人が訪れる一方で町内周遊に繋がっていない課題を踏まえ、流入拠点を起点とした観光導線の再設計と地域内消費拡大、滞在時間延伸を目的とする観光コンテンツ開発プロジェクト
- フィールドワークにより課題は、①認知不足、②回遊設計不足、③滞在不足の3層構造であることが明確になった。
- そのため本事業では、観光アプリ（導線設計）、観光動画（認知拡大）、ホテル誘致検討（滞在促進）を同時並行で推進する三種類のアプローチを採用。
- 一橋大学生10名による現地視察・ヒアリング・業務体験、地域NPO・高校生・農家・道の駅関係者との合同フィールドワークを通じた観光資源の再整理、回遊仮説構築、実証を見据えた企画立案および若者共創による実装型政策形成モデルの構築を行う。

プロジェクトの内容

【連携する大学等】一橋大学、【学生の主な活動先】町内観光施設

【参加学生人数】10人、【期間】令和8年10月18日～令和9年2月5日（合計20日）

背景・課題・詳細

京丹波町では、年間300万人が道の駅に訪れるものの、町内観光に繋がっていない状況。観光資源は存在するが、情報発信や回遊設計が不十分で、滞在や消費の拡大に至っていないことが課題。

プロジェクト詳細

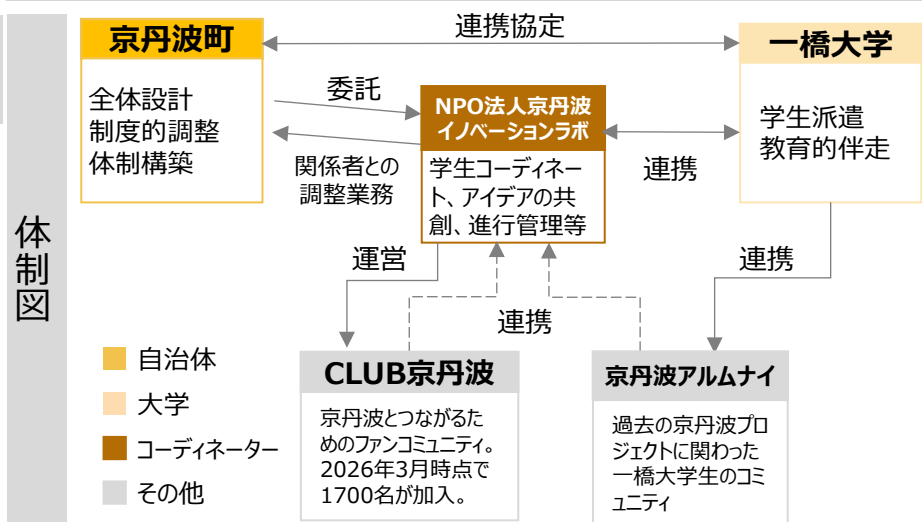
若者の視点を取り入れた観光コンテンツ開発プロジェクト

- 町内フィールドワークをおこない、主要観光地の視察・関係者ヒアリング、味夢の里インフォメーション業務体験、地域NPO等との合同フィールドワークを通じた課題把握の実施
- 解決アプローチを検討し、観光アプリ制作・観光動画作成・ホテル誘致提案書作成の3つの取組方針の決定
- 実装に向け、観光アプリのプロトタイプ制作、観光動画制作、ホテル誘致提案書作成、地域NPOと連携した冬季観光コンテンツ実証（酒蔵ツアー）の実施

特徴・創意工夫

地域NPO・アルムナイと連携し、ファンコミュニティを対象とした実証事業を展開。チャットツールを用いた官学民のデジタル連携により、継続的な共創と検証を可能とする観光政策推進モデルを構築。

体制図とイメージ



イメージ



ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（兵庫県丹波篠山市）

概要

- 兵庫県内5大学と連携し、旧Aコープ跡地で多様な世代が交流できる「居場所」の創出をメインとするプロジェクト
- ・本プロジェクトを通じて、学生の視点から地域資源を再定義し、東部地区の関係人口創出および持続的な地域活性化を推進する。
 - ・学生のやりたいことを尊重した多様なプロジェクトに取り組むことで、地域課題を複合的に解決できる体制を構築する。
 - ・目標達成に向け、各プロジェクトメンバーと毎週定例MTG（オンライン）を実施。学生たちが継続的に地域や課題と向き合える体制を構築する。
 - ・次年度以降は、各プロジェクトを通じてそれぞれが身に付けたスキルや視点を掛け合わせることで、他にない魅力的な交流拠点の確立を目指す。
 - ・Discord等のDXツールを活用して参加学生との継続した連絡体制を維持し、次年度以降も気軽に地域へ関与し続けられる関係性を形成する。

プロジェクトの内容

【連携大学等】兵庫県立大、武庫川女子大、神戸学院大、関西国際大等
 【学生の主な活動先】市内東部六地区 【期間】令和7年6月～令和8年1月
 【参加学生人数】現地188人（全17日）／オンライン96人（全28回）／計284人

背景・課題・詳細

東部6地区の人口急減と高齢化により、伝統行事の担い手不足やコミュニティ維持が危機に瀕している。豊かな地域資源がありながら外部との接点が乏しく、若者が継続的に関わる「入口」となる拠点がなく、これが喫緊の課題である。

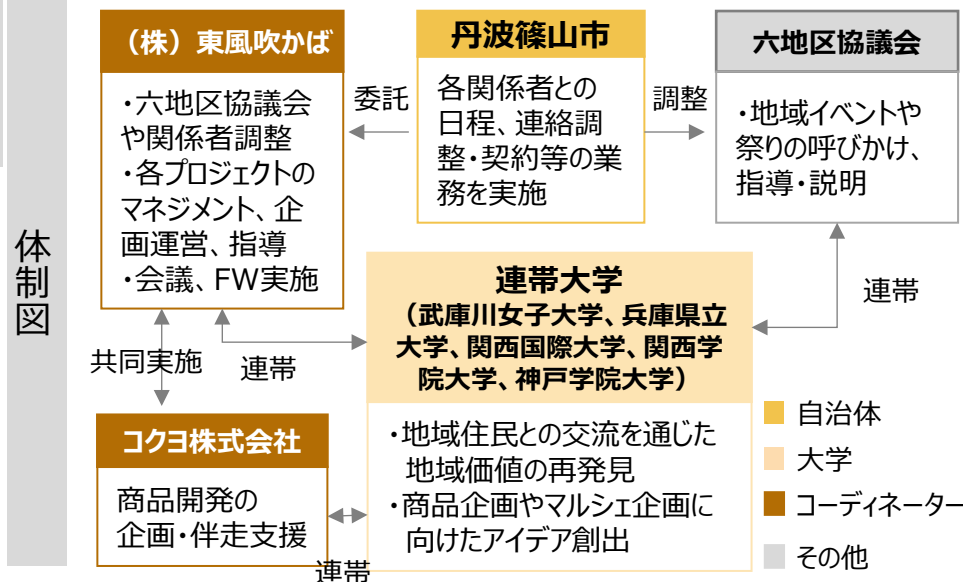
プロジェクト詳細

- (1) スーパー跡地等を活用した居場所づくりプロジェクト
- (2) 地域資源を活用した商品開発・リブランディングプロジェクト
- (3) マルシェ運営および都市部テストマーケティングプロジェクト
- (4) 学生ならではの視点を活かした情報発信プロジェクト
- (5) 竹資源活用・循環型農業プロジェクト
- (6) お祭り支援プロジェクト
- (7) キックオフ・地域理解フィールドワーク（バスツアー）

特徴・創意工夫

徹底したDX化により、AI議事録やWeb経費精算を導入して教員や自治体の事務負担を削減した。また、個々のやりたいことやスキルの生きる役割を与えることで、「お手伝い」の枠を超えて地域の課題を解決できる体制を構築。さらに民間企業（ココヨ等）の伴走により、企業の知見を直接学べる点も大きな特徴である。

体制図とイメージ



イメージ



ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（和歌山県）

概要

- ・和歌山県が県内市町 5 自治体と連携し、5つのプロジェクトを取りまとめ、各地域ごとに大学・コーディネーターとの連携体制を構築。
- ・各地域での現地活動のほか、全体報告会や研修会等を通じて、地域や大学の垣根を超えた交流機会を設け、継続的に地域と関わる関係人口創出を目指す。

| スケジュール | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|---------|------------------------|----|------------------|----|----|-----|------|-----|----|-----|
| 各プロジェクト | 計画調整 ※④は前期授業の為、FW開始 | | 講義・現地活動（FW）・検討検証 | | | | | 発表 | | |
| 全体事業 | | | キック オフ研修 | | | | 中間研修 | | | 報告会 |

プロジェクトの内容

体制図とイメージ

【連携大学等】・【学生の活動先】右図参照 【参加学生人数】計41名 【期間】上図参照

背景・課題・詳細

- ・県の人口減少幅が加速、特に生産年齢人口の減少が著しい。
- ・地域の担い手不足が避けられないなか、多様性に富んだ地域づくり
⇒地域外の意見、特に固定観念に囚われない若者の意見がカギ

プロジェクト詳細

地域ごとに特色のある産業等を体験し、多様性ある地域づくりや未利用資源の有効活用など地域課題の解決策を提案

特徴・創意工夫

- ・広域自治体が主導することで、複数自治体でプロジェクトを並行して実施。プロジェクト進行や事務手続きを共有し負担軽減。
- ・複数の県内地域・大学の垣根を超えた交流を創出。

イメージ



空き家活用



屋台づくり

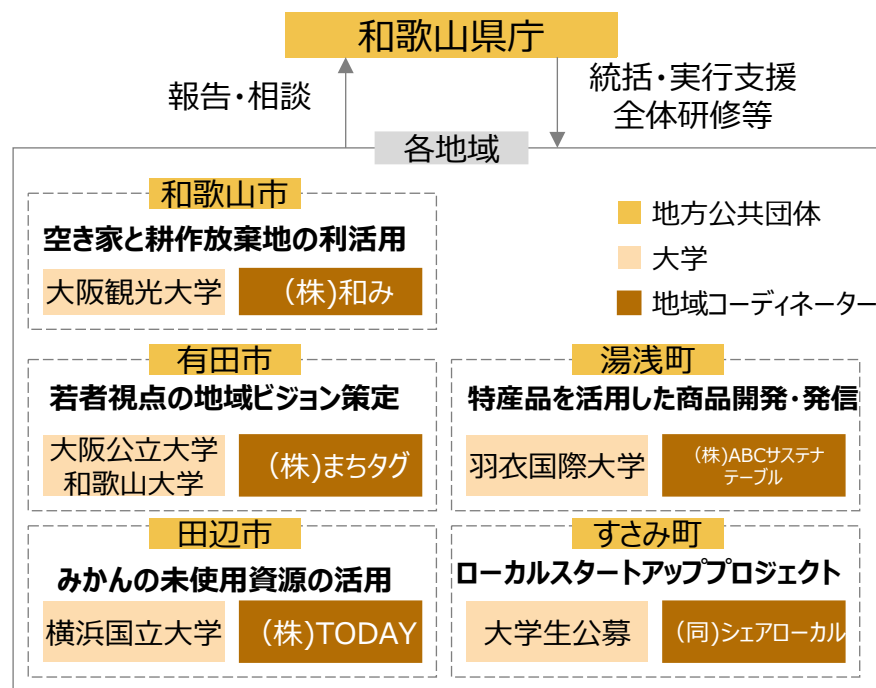


商品試作開発



住民と盆踊りに参加

体制図



- 地方公共団体
- 大学
- 地域コーディネーター

ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（和歌山県）

①「空き家と耕作放棄地のデッドストックの利活用促進プロジェクト」

活動地域：和歌山市（中心市街地エリア、貴志川線沿線エリア）

コーディネーター：株式会社和み 永田氏

連携大学：大阪観光大学 参加学生 8名

②「みのしまラボ

～地域とつながる14日間の協働まちづくりキャンパス～

活動地域：有田市箕島地域

コーディネーター：株式会社まちタグ 小川代表

連携大学：和歌山大学、大阪公立大学 参加学生 11名

③「ふるさとミライカレッジ in 湯浅町

～地域と若者の絆プロジェクト～

活動地域：湯浅町

コーディネーター：株式会社ABCサステナテーブル 本間代表

連携大学：羽衣国際大学 参加学生 9名

④「若者の視点を取り入れた

『みかんの未利用資源』の販売促進プロジェクト

活動地域：田辺市

コーディネーター：株式会社TODAY 山田代表

連携大学：横浜国立大学 参加学生 4名

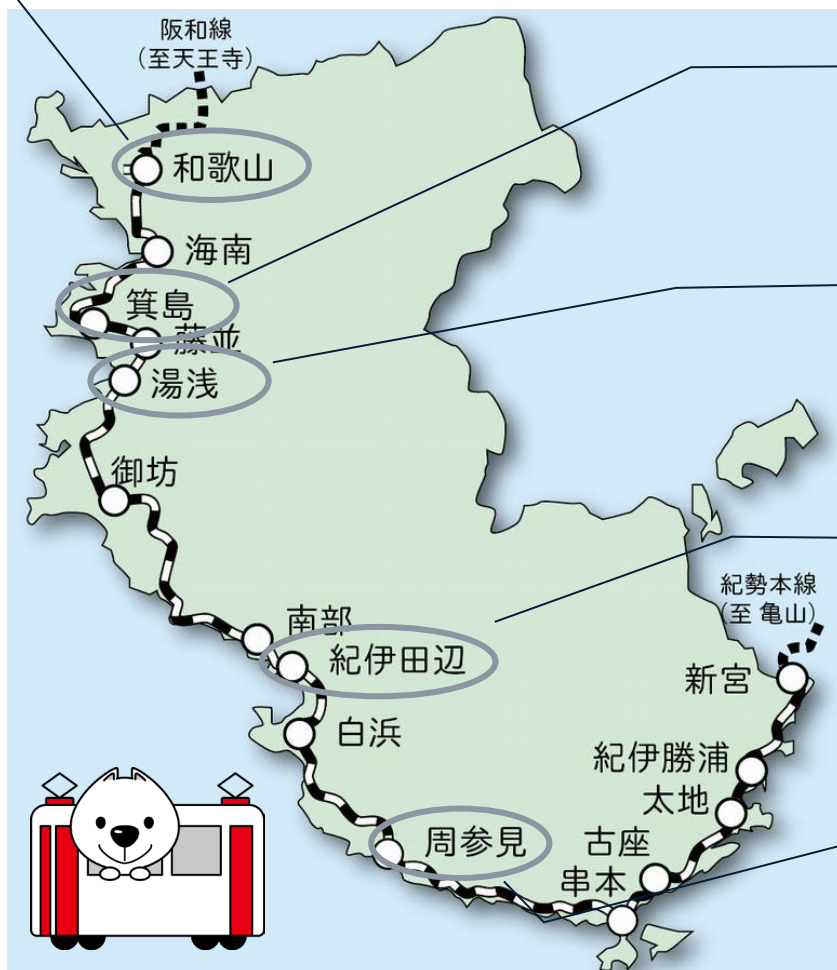
⑤「若者の視点を取り入れた

SUSAMI LOCAL START UPプロジェクト

活動地域：すさみ町

コーディネーター：合同会社シェアローカル 源口代表社員

連携大学：大学生公募 参加学生 9名



ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（島根県雲南市）

プロジェクト① 課題解決人材育成のための地域系高等教育機関との協働

地域のお祭り〈木次賑わい市〉と学生滞在拠点を中心とした交流の場づくりおよび、滞在型交流施設「うみのいえ」で地域や地域住民と学生の交流を創出するとともに、地域住民と学生の関係構築を図る。

- 概要**
- 【チームA】 高校生を対象に、市内で就労・居住することを選択肢を持たせることを目的とした「雲南すごろく」を制作。
 - 【チームB】 親子世代が地域のイベントに参加し、交流を図れるツールとして「手作りおもちゃ冊子」を制作。
 - 【チームC】 雲南で活動する学生と地域住民の交流を目的とした、活動学生の滞在型交流施設を活用したイベントを開催。

プロジェクトの内容

【連携する大学等】島根大学 【学生の主な活動先】交流型滞在拠点「うみのいえ」
【参加学生人数】10名、【期間】令和7年7月20日～令和8年1月19日（合計25日）

背景・課題・詳細

・地域イベントの運営は60～70代が中心で若年層が不在。
・学生の滞在拠点はありますが、オープン直後のため地域との繋がりが希薄である。

プロジェクト詳細

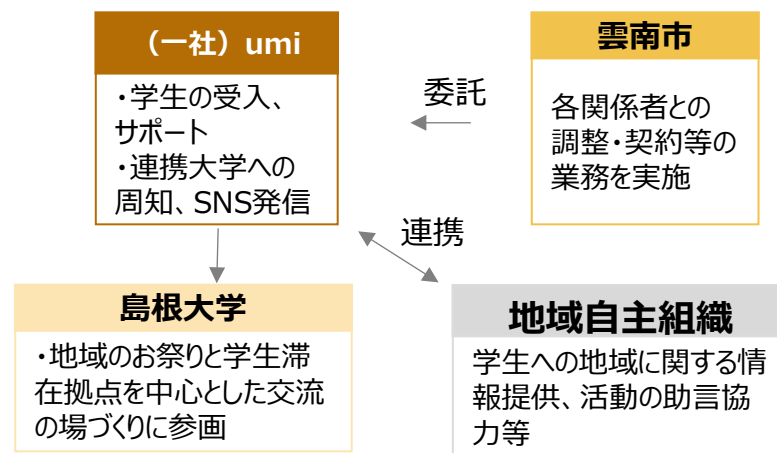
- 7月 学生の滞在拠点における交流イベント開催（1回目）
- 8月 ヒアリング等を通じたニーズ調査
- 9月 地域のお祭り実行委員会への参加
学生の滞在拠点における交流イベント開催（2回目）
- 9～12月 地域イベントへの出店

特徴・創意工夫

・地域の受け皿として、地域の高校生や親子世代といった多世代の地域住民を巻き込み、ひろく地域側のネットワーク拡大を図っている。
・**住民が学生の活動を伴走することで関係性を構築し**、単発のイベントではなく継続した地域住民との関係を創出。

体制図とイメージ

体制図



イメージ



ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要 (島根県雲南市)

概要

プロジェクト② 建築系の高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり

雲南市内で発生する空き家課題に対し、建築系学生の特技を活かしたドローイングやものづくりにより、地域の潜在的なポテンシャルを可視化する。

【プロジェクト①】木次駅前通りの賑わいづくりにおける空き家や通りを活用した企画・什器デザイン、運営

【プロジェクト②】木次駅前通りの活性化の一環とした旅館建物の有形文化財登録に向けた調査及び現況図面の作成

【プロジェクト③】雲南市三刀屋町一宮地区の空き家を活用した地域拠点施設の什器企画・製作

【プロジェクト④】雲南市大東町阿用地区の住民と共同した地域内のランドスケープ計画の策定

プロジェクトの内容

体制図とイメージ

【連携する大学等】早稲田大学等 【学生の主な活動先】木次駅前商店街
【参加学生人数】25名、【期間】令和7年7月20日～令和8年2月28日（合計40日）

背景・課題・詳細

・各地域の地域生活エリアおよび生産振興・交流促進ゾーンにおいて空き家が増加しており、維持管理が難しくなっている。
・一方で活用可能性の高い空き家もあるが、活用に向けた調査・分析ができていない。

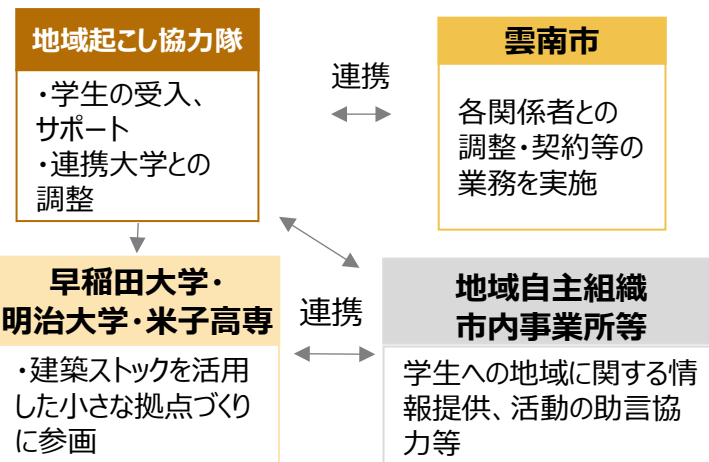
プロジェクト詳細

①まちあるきや住民との交流を通して、地域の特性や伝統文化について理解を深める。
②地域の大工さんや有識者から、調査や什器作成の指導を受ける。
③成果物を地域の祭りや住民ワークショップでお披露目し、地域住民からのフィードバックを受ける。

特徴・創意工夫

・長期的な活動計画に基づくプロジェクトの実施
・学生のロールモデルであるコーディネーターが丁寧に伴走することで、地域課題解決に取り組みながら地域との関係構築について学ぶ。

体制図



イメージ



ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要 (島根県雲南市)

概要

プロジェクト③ 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働
 持続可能なまちづくりに向けた、個別具体的な地域課題の分析や解決策の検討、課題解決に向けた事業を推進する。
 【プロジェクト①】えすこ (ちょうどいい雲南市、雲南市らしさ) に暮らす
 コミュニティガバナンスにおける過去5年間の成果と課題の調査、及びワークショップイベントの企画運営
 【プロジェクト②】えすこ (ちょうどいい雲南市、雲南市らしさ) に創る
 地理的条件不利地域の観光資源のポテンシャルおよび課題の調査、地域における観光施策の策定
 【プロジェクト③】えすこ (ちょうどいい雲南市、雲南市らしさ) に育む
 人材流出における要因の調査・分析、及びワークショップイベントの企画運営

プロジェクトの内容

【連携する大学等】関西学院大学等、新潟工科大学、関西大学、専修大学
 【学生の主な活動先】三日市ラボ、松笠交流センター 等
 【参加学生人数】18名 【期間】令和7年2月10日～令和8年2月21日 (合計17日)

背景・課題・詳細

第3次総合計画で掲げる「えすこな雲南市」実現のための3つの柱「暮らす」「育む」「創る」のそれぞれの分野に対し、個別具体的な課題やポテンシャルの可視化が十分でない。

プロジェクト詳細

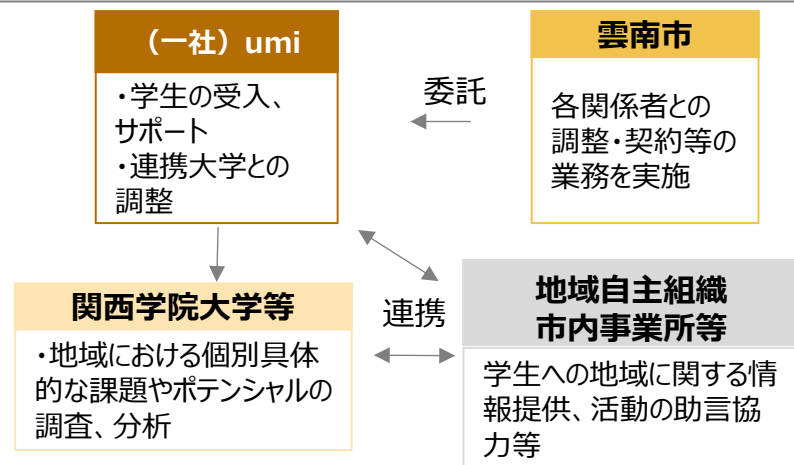
- ①地域住民や事業所へのヒアリング、地域住民とのワークショップ等を通じて、地域のポテンシャルおよび課題を調査する。
- ②受け入れ先との共同により、地域課題の分析や課題解決に向けた具体的な提案を行う。
- ③リーフレット等の成果物の作成。

特徴・創意工夫

・学生を巻き込んだ課題解決の取り組みに強い意欲のある受け入れ先でのフィールドワーク実施により、継続した関係の構築を行う。

体制図とイメージ

体制図



イメージ



2. ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（島根県海士町）

概要

- ・ **慶応SDM等と連携し、大人の島留学生と島前ふるさと魅力化財団の両者による共創プロジェクトを立ち上げ、システム×デザイン思考等の方法論を適用しながら、良質な問いを建て、事業で解決する方法を検証するプロセスを伴走した。**
- ・ 具体的には、1年間の地域インターン実施中の島留学生に対して、**全5日間の講義パート（基礎編・応用編）** および**約3ヶ月のPBL（実践編）**を行い、**システム×デザイン思考を活用した「良質な問い」を基にした地域課題解決・魅力発信の実践に伴走した。**
- ・ 上記取り組みにおいては、**地域づくり団体（島前ふるさと魅力化財団）のうち、伴走担当の職員も全日程参加。**事業開発や事業共創の経験値が少ない**スタッフ陣が“伴走の実践経験”を得る**ことで、必要な伴走の明確化および伴走能力の向上に寄与した。
- ・ 各プロジェクトには、自治体や地域事業者等が適宜関与。情報・リソースを提供しながら、プロトタイプ・実証を支援。

プロジェクトの内容

体制図とイメージ

【連携する大学等】 慶応SDM、東京農業大 【学生の主な活動先】島全体

【参加学生等人数】34名 【期間】2025年7月～12月

背景・課題・詳細

若者・女性にも選ばれる地方を体現してきた一方、のべ400名を超える域外からの若者（「大人の島留学生」）の活動が、地域課題解決や産業創造に繋がる事業創造・起業まで辿り着いていない。

プロジェクト詳細

「若者自身」と、地域側で支える「中間支援組織」の育成 講義パート（主にインプット）

- ・ システム×デザイン思考の基礎を、全5日間の講義・ワークショップおよび地域でのプロトタイプ実践を踏まえてインプット。

実践パート（主にアウトプット）

- ・ 島留学期間の前半6ヶ月間で感じた地域課題・魅力を基に5つのプロジェクトを立ち上げ、講師陣が3ヶ月間の伴走支援。

特徴・創意工夫

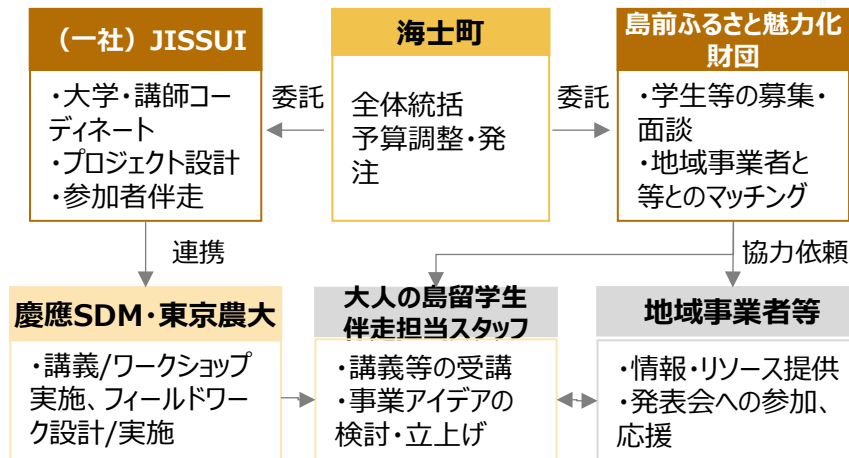
コンピテンシー・ルーブリックによる人材定義・学習到達度評価

- ・ 育成ターゲット人材像をコンピテンシーとして大学の協力のもと設計。関係者間でイメージ共有し人材の理解度を高める。

中間支援組織における“伴走力”の定義と育成

- ・ 財団職員の“伴走”の在り方をプロジェクト中に具体化。育成効果を把握することで次の打ち手を明確化していく。

体制図



イメージ



講義に参加している様子



事業プロトタイプの様子

ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（愛媛県宇和島市）

概要

- ・事前復興計画の具体化に向け、東京大学の専門性と地元学生の視点を融合したハード・ソフト両面の解決策を検討。既存の事業や部活動を連動させることで、一過性に終わらない持続的な取組と関係人口の創出を図る。
- ・重要伝統的建造物群保存地区である津島岩松地区、南海トラフ地震発生後の緊急拠点の想定地域であり市全体の事前復興計画の上で重要な位置にある三間地区（事前復興計画のモデル地区）において、フィールドワークを実施する。インフラ・建築の現状調査、住民へのインタビューおよびワークショップを高校生と連携しながら実施し、それぞれの地区に適合した避難、備蓄、災害後のタイムラインなどのソフトの提案と、拠点施設や避難場所、避難路・輸送路の整備などのハードの提案を作成する。
- ・市内の既存物件を活用し、住民の滞在場所と展示会場を兼ねた拠点へ改修する（岩松地区を想定）。フィールドワークの成果および、これまでの宇和島市・東京大学の連携の成果、高校生の活動の成果を展示し、地域住民・高校生とのワークショップを実施する。
- ・ワークショップでの意見の分析し、今後の課題等の整理し、地域住民とも共有を行う。

プロジェクトの内容

【連携する大学等】 東京大学大学院 工学系研究科 【学生の主な活動先】 宇和島市内
 【参加学生人数】 10人 【期間】 令和7年7月1日～令和8年2月21日

背景・課題・詳細

宇和島市は、柑橘農業・水産業などの基幹産業、魅力ある伝統文化を有する一方で、人口減少が進行し10年後には生産年齢人口と高齢人口が逆転することが予想される。南海トラフ地震等の大規模災害が発生した場合、既存のインフラや建築物への被害にとどまらず、広域避難や避難生活の長期化によって人口が流出し、地域全体の持続可能性に影響を与えかねない

プロジェクト詳細

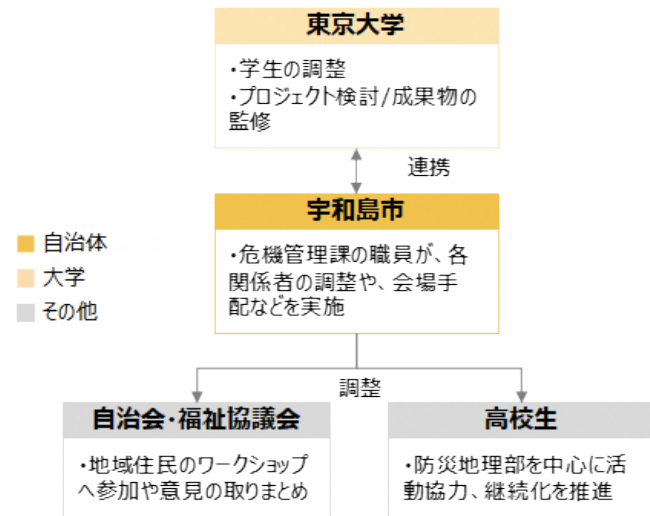
- ・高校生と連携したフィールドワークを実施し、各地区の特性に応じた防災・復興に関するハード・ソフト両面の提案を作成
- ・成果の展示や、交流施設整備に関する検討、住民への課題の整理・共有を実施

特徴・創意工夫

【関係人口としての学生等との関わりと暮らしやすい地域づくり】
 ・住民や高校生との双方向的な議論やワークショップは、参加する大学院生が、将来地域において、土木・建築・都市計画等の専門を活かした活動をしようという意欲を創出できる。

体制図とイメージ

体制図



イメージ



ふるさとミライカレッジ モデル事業の取り組み概要（沖縄県宮古島市）

概要

- 観光関連産業の人手不足解消を目標として、大都市圏からの学生の就職促進に向け、週末副業等により都市部と変わらない可処分所得を目指す「宮古島モデル」の可能性を検証。
- 観光関連（今年度はリゾートホテル）のインターンと地域課題研究を組み合わせ、副業の過ごし方を体験いただくとともに、学生が観光最前線での学びを得ながら、地域に島外からの若い層の知見を還元することで、相互補完による関係人口を創出する。
- インターンシップとフィールドワークを組み合わせた新たなプログラムを実施し、地域一体となって学生を受け入れる体制を構築することで、島外の若者の知見を活かした課題解決にもつなげる。

プロジェクトの内容

【連携する大学等】 ①立教大学、①②淑徳大学、③ZEN大学 ①9/5～19（2週間）
 【学生の主な活動先】 市内リゾートホテル、市内各地 ②11/4～10・1/3～10（2週間）
 【参加学生人数】 ①9名、②5名、③5名 計19名 ③1/4～2/3（1か月間）

背景・課題・詳細

宮古島市では観光産業を中心に人手不足が起こっており、都市部からの新卒学生の就職を促す新たなモデル構築を目指している。副業により都市部と変わらない可処分所得を目指すモデルを、インターンシップを通して実証する。

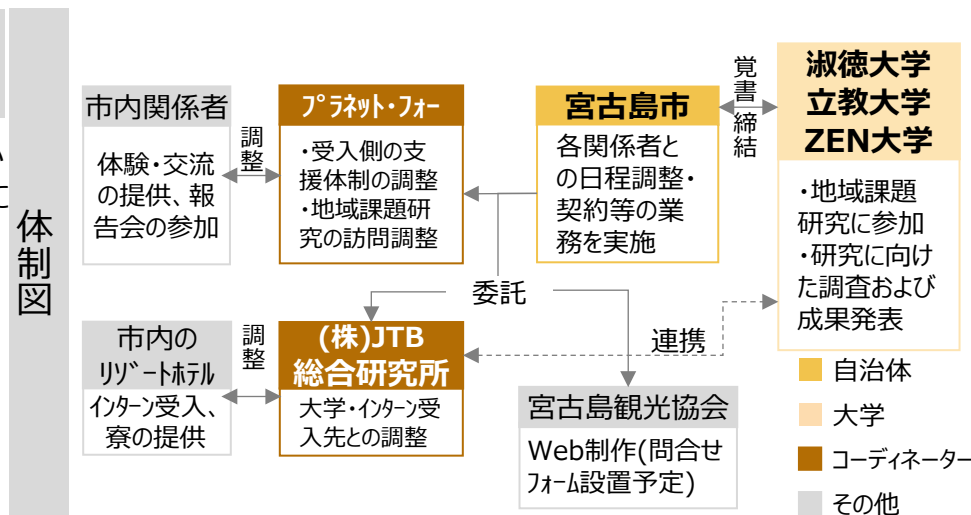
プロジェクト詳細

- 「宮古島モデル」構築に向けた実証
- 2週間のインターンシップ&地域課題研究：観光を学ぶ大学1～3年生を対象に実施
 - ゼミ研究：観光を学ぶ大学2年生を対象に、1週間×2回のフィールドワークを実施
 - 1か月のインターンシップ&地域課題研究：オンライン大学「ZEN大学」1年生を対象に、授業を受けながら実施

特徴・創意工夫

- インターン先のホテル寮で滞在し、滞在場所を確保（繁忙期の宿泊費や、住宅不足などの懸念をクリア）
- 市内のコーディネーターが現地との調整を、都市部のコーディネーターが大学や勤務先との調整を行い、効果的に運営
- オンラインのオリエンテーションで事前の学習・交流を実施

体制図とイメージ



イメージ

